

2004 winter VOL.44



# アイの四季だより



今は無き冬の風物詩 当地雪国ならではの  
あったか〜い「わらぐつ」▶



相談室 三水村 普光寺 969-1 (高野農機様となり)  
営業本部 ☎026-253-1377 FAX253-1378  
飯網ホール 牟礼村黒川2415 ☎253-1377  
五岳ホール 信濃町古間93 ☎251-7155

フリーダイヤル ☎0120-796-311

信濃町 牟礼村 三水村 豊田村 豊野町 長野市赤沼 —— 皆さまのお手もとへお届けいたします

## 音楽活動いしと筋に

### 戦後昭和から平成の今日まで 駆け抜ける——音楽家 丸山博司



小布施モンブラン 定期ライブ

音楽家丸山博司さんは、牟礼村福井団地の目抜き通りに居を構えています。丸山博司とアンサンブル・ファンタジアのバンドマスター(通称「バンマス」として、ギタリストとして、各ライブハウス等で活躍中です。

いつ頃からギター始められたのですか? 「焼け野原となった終戦直後から友人とともに」と、言われてもこの時代、大半の人は日本の敗戦を知らない。

戦後はアメリカの軍隊(進駐軍)が日本の一流ホテル等接収。ダンスホールが盛んとなり、丸山さんはホルのバンドで演奏するようになる。戦後数年経って進駐軍から施設が接収解除される。朝鮮動乱が起きて日本経済復興の兆しが見えはじめたころ、丸山さんは銀座の超一流旭「クラブ耕一路」のバンドに入る。御年(おんとし)二十一歳。

このあと、テイチクオーケストラに入って、ディックミネ・林伊左男、菊地章子・勝太郎・音丸などのパツクを勤め各地を巡演。どうです、知る人ぞ知る、懐かしいスターが出てきました。



テレビ出演の、ギター演奏 丸山博司さん(30歳代) [丸山博司トリオ]  
リーゼントで、びしっと決め込んで……今から40年前

丸山さんの音楽生活は、まだまだ続きます。ここまではホンの序の口。昭和三〇年頃信州へ帰郷して、自分のバンドを結成し、長野のクラブへ出演。この頃の音楽仲間聞きますと、「楽隊は、モテて、モテ過ぎちまって」と。  
東京オリンピック開催の昭和39年に、S.B.C.T.V(信越放送)「日曜日と朝」に、丸山博司トリオ等でレギュラー出演。「この頃のテレビカメラのレンズはズームでなくてね。アップのときはカメラ本体がズズッと顔めがけて寄ってくるんだよ。怖かったよ」▶

音楽活動を続けながら、渡辺貞夫氏に音楽理論(故)八城一夫氏に音楽理論とアレンジ等を学んで、さらに音楽の世界を究める。  
平成二年、キングレコードより作品「リメンバール信濃路」を出し、以降多数作品発表。  
荒廃した戦後から復活した平成の今日までの半世紀余り、時代とともに音楽一筋。途中でやめる気ありませんでしたか? 「好きだから、やる気なかつた」と、益々意気盛ん。

音楽の好きな方  
熟年の方のご趣味としても  
● 歌謡曲、カラオケ  
ギター、ピアノ、歌謡曲、カラオケ  
初歩からやさしくお教えます。

**丸山音楽教室**  
日本音楽著作権協会会員  
TEL 253-4401  
FAX 253-4401  
牟礼村福井団地1670  
▶教室にて(お気軽にお問合せください)



音もなく降りしきる、ある雪の夜  
軒のつららを切り落とした男の家に  
美しく若い女が訪ねてきて泊めてく  
だされと言ったそうじゃ。そして自  
ら望んで男の嫁になつたそうじゃ。  
で、どんなふうになつてしつこく  
聞かんでもよろしい。  
寒い晩なので、男は嫁の欲心を買  
うために、いやがるのにムリに風呂  
に入れると……

## 家族葬ってなに?

一般的なお葬式は、お通夜・葬儀告別式・お斎(精進落とし)を、周知して行います。  
このスタイルを取らない幾つかのカタチがあります。

★家族葬Ⅱハウスセレモニーとも呼ばれ、身内やごく親しい人たちがだけで慎ましく行います。ひっそりと、周知はしません。ですから「私になぜ知らせてくれなかつたの」と、あとで苦情が出ないようにしません。  
★密葬Ⅱ近親者だけで、お通夜、出棺まで終了とします。

後日改めて告別式を行うこともあります。  
★お別れ会Ⅱ形式、慣習にとらわれず、告別(故人に別れを告げる)式とお斎を合体したカタチです。可憐な花壇に遺影写真を設置して、立食(会食)パーティー形式で行います。会費制で行うこともあります。

どのような形式で行うにせよ、心からお見送りしたい。満足できる葬儀をしたい。トラブルがあつてはならない。そのためにはなるべく事前に当社へご相談ください。  
当社アイセレモニーでは、家族葬、密葬向きのコースも設定されていて、適格なアドバイスもいたしております。当社なら安心です。



## 雪女

恋しい……  
おまえ、よだれが出るとぞ。  
……姿がなくなり、細いつららのかけらだけが浮いていたよ。  
幼いころ、いろり端で幾度ともなく今はじきおばあちゃんの昔ばなし「雪おんなの恐しくも美しく悲しいものがたりに胸をふるわせた思い出が甦ります。  
囲炉裏(いろり)は、そのころ住まいの中心であつて、探暖、煮たき、  
照明的機能とともに、一家だんらんの場でありました。生活様式の近代化、洋風化の普及にともない、室内も華麗なインテリアとなりましたが、情緒がなくなり、失ったモノも大きい気がします。  
積雪地帯に語り伝えられています。たこの「雪女」は、冬の満月の夜にあらわれるといわれます。ひよつとすると今夜あたりでしょうか。

シリーズ名刹をたずねて

# 父(十四世)いわく 「何もないから、自由を与える」

## 浄土真宗本願寺派

### 金松山 敬念寺

三水村赤塩



敬念寺本堂



▼鐘楼(かねつきどう)八世建立(1818文政1年)



「私がこの寺へ赴任したのは、今から四十二年、血気盛んな三十歳で、当時は高校の教師兼任でした」

「代々僧職の家系で、祖父(十三世)は本願寺に勤務。父(十四世)は岡谷に布教所を開設し布教に専念し敬念寺分院として、現在三世が活躍している。岡谷の敬念寺より私がこの寺の十五世として入寺」

記録によりますと元文五年(一七四〇年)、今から二六五年前に本堂焼失。このあと三世恵海が再建。以降「手を加えながら今日に至る。だから今だに仮本堂のままだ」と、ご住職は嘆く様子もなく明るく笑う。

「本堂のこの柱、本来ならばこの位の丸い柱のはずでね。四角い古材使って継ぎ足しつぎたしで。ご住職の奥さまいわく「私が嫁いできたその日から修繕にいられている大工さんにお茶出しとお手伝いがずっと続いていて、私、何のためにこへ来たのかしらね」と奥さま大笑い。」

「貧乏寺だから」と言いながらもご住職も奥さまも笑い声が絶えません。父(十四世)から「何もないから、自由を与える」と言われ、長兄は医者になってしまいましたので、私が入寺。

ご住職は庫裡の奥の部屋で、なにやら「こそ」と。でてきたのは、なんと古文書。寺請(てらうけ)証文、宗旨人別帳 かな。

こよりで綴じられた和紙に墨の筆文字が認められ、ずらりと並んだ人名には連判。最後に重々しく「奉行」と太い二文字。

「これはキリシタン禁制を布告して、村人はすべていざずれかの仏教寺院に帰依し、誓いを立てなければならぬ証文なのだ」と、ご住職の説明。一六三五年(徳川三代将軍家光)江戸幕府は寺社奉行を置き、宗門改めなど宗教行政にあたり、寺院に村人の戸籍を担当させる官僚的な特権、地位を与え、強制的な「檀家

制度」を成立させたという。これによって、寺院の経済的な運営をも容易にした。

さらに、一六六五年(徳川四代将軍家綱)江戸幕府は「諸宗寺院法度」なるものをつくり寺院を統制。寺院を保護しつつ利用し管理して、僧の完全な骨抜きに成功。つまり、アメとムチで徳川三〇〇年の安眠の一端を担ったという。なんのこっちゃ、いつの時代も権力者のやることは。

ご住職は、寺本来の使命である仏の教えを広めるための活動に精力的です。

地域の婦人会の皆さまには一〇日毎にお集まりいただいて「正信偈講座」(六月・九月)を開き、また、檀家の皆さまは年一回旧跡めぐりの研修旅行を行っています。

ご住職は現在、福祉と平和の理念に基き、社協理事と民生委員も勤められ、僧職のお勤めと同時に仏徳を實踐されています。

第十五世住職 金松正也  
三水村赤塩六五〇六  
電話〇二六・二五三・二〇八八



本堂でご講演のご住職

## 檀 だんか 家

ひとくちMEMO

サンスクリットの「ダーナパティ」から、布施をする信男・信女をさし、施主・檀那(だんな)主と訳されています。

日本では「ダーナ」「檀那」の呼称で、人々はいずれかの寺院に所属し、布施によって寺院の財政維持を援助する信徒の意味に用いられ、その家のことを檀家といえます。

妻やおめかけさんや、開い者が主人を「ウチのだんな(檀へ旦那)」と呼ぶのは、援助されているからであって、★されていなければ言う必要がないわけでありまして、オマエさん!と呼んでいいでしょうね。

アイセレモニー  
飯綱ホールに  
[お通夜室]  
(安置室)  
完備されています



通夜祭壇を飾りつけた一例

葬祭場(ホール)に通夜室(安置室)もあって、ホールでお通夜から翌日の葬儀告別式を続けて行うのが一般的です。

私たちの地域ではお通夜は自宅で行い、翌日の葬儀告別式は便利なホールを利用することが多くなりました。ところが住宅事情や環境の変化に

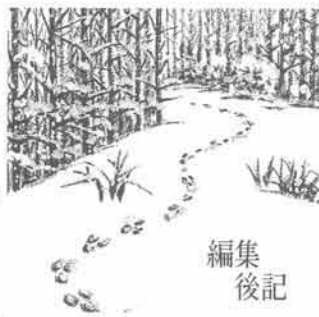
伴い、お通夜も行うことができないこともあります。

●狭い部屋のため片づけができない。弔問にお越しいただいた方の居場所がない。道が狭く、車を止めることもできない。

●店舗併用住宅の場合、一階店舗から狭い階段を二階へ上げ下げできない。

●弔問客に失礼のないよう、お通夜もきちんと設備の整ったホールで行いたい。などなど。

このような場合にお役に立てていただければと、当社飯綱ホールには通夜室(安置室)が設らえてあります。わずらわしさがなく、ゆつくりと想いに浸れるひと刻のために、いつでも見学できます。事前のご相談も承っております。



編集後記